

令和3年度 第3回松山地域協議会会議録

日 時 令和3年8月2日(月) 13時30分～15時10分

場 所 松山農村環境改善センター

出席委員 14名

齋藤 明	小林 正利	阿部 喜久子	清野 淳
富樫 とも子	荘司 東一	加藤 恭子	齊藤 薫
平向 邦夫	三浦 由美	榎本 和介	佐藤 正勝
齋藤 紀代	須田 良		

欠席委員 1名 佐藤 徳康

酒田市出席者

松山総合支所長	出嶋 亨
松山総合支所 支所長補佐	丸藤 真也
松山総合支所 支所長補佐兼建設係長	堀 伸一
まちづくり推進課 課長	長尾 和浩
まちづくり推進課 課長補佐	松 永 隆
まちづくり推進課 地域づくり主査	池田 一穂
まちづくり推進課 主事	讃岐 祐香

傍聴者 なし

1 開 会

2 会長あいさつ

○平向邦夫会長 あいさつ

3 議事録署名人の指名

○会長が議事録署名人に、榎本和介委員を指名

4 議 事

【報告事項】

(1) 過疎計画について

(まちづくり推進課、長尾課長と松永課長補佐が、資料に基づき説明)

(小林正利委員)

松山スキー場の整備にリフト改修とあるが、リフトの形は足に挟む現行のまま変わらないのか。

(長尾課長)

座るタイプのリフトではなく、現行の形のリフトと考えている。

(清野淳委員)

過疎地域要件の見直しがあり、この地区は過疎地域の要件に該当するため、この過疎計画を策定しているという理解でよろしいか。

(長尾課長)

この要件に該当しない場合は、過疎地域から外れることになるが、酒田市の場合、松山、八幡、平田の3地区が該当したので、この過疎計画を策定した。

(清野淳委員)

この中では松山地区の人口減少率が一番大きい。計画は、全体を網羅する形にならざるを得ないかと思うが、人口が少ない所へ対応するよう、人口比によって予算の濃淡をつけられないか。

(長尾課長)

松山地区は人口減少が一番大きいので手厚く予算をつけてほしいという意見と受け止めた。過疎計画は、酒田市のまちづくりを考えるうえで、過疎債を活用して地域を活性化していこうとするもので、予算については予算編成の中で皆様のご意見を踏まえながら判断していきたい。

(清野淳委員)

松山地区は、何十年か先は限界集落になりかねないので、そうならないように手立てをお願いしたい。この計画は、全体を網羅する形で総花的になっているが、一番の人口の問題が見えづらい。移住・定住が大事だと思うので、予算をかけて施策を行い、進捗率が分かるよう、数字で表してもらいたい。目標に「交流人口の拡大」とあるが、1日や2日だけの交流人口ではなく、定着するような施策に予算をかけてほしい。これは要望なので回答はிரらない。

せっかくの打ち出の小槌ともいえる過疎計画だが、八幡・平田地区と違って松山地区の方向性がはっきり見えない。賑わいの創出だけで終わるより、きちんと定着するような施策になるようにしていただきたい。特に人口減少が著しい所へ予算をつけて対応していただきたい。

(長尾課長)

過疎計画は、漏れのないように全般的に記載する必要があるので、ご理解いただきたい。魅力ある地域づくりを進めることで交流人口が増加し、やがて移住・定住につながるのではないかと

考えている。松山地区の特色については支所長から説明する。

(出嶋支所長)

子育て支援の一環としての「まつやまくまくん教室」、閉じこもり予防のための「松山いきいきくらぶ」など、若い人から高齢者までが住みやすい地域であることを前面に出し、人口減少に少しでも歯止めがかかるよう、魅力あるまちをアピールして、賑わいの創出、移住・定住につなげていきたいと計画に記載している。

(清野淳委員)

平田地区は、「移住・定住を促進し、人口減少の抑制を図る」と記載がある。松山地区は一番人口が少ないので、移住・定住の手立てが必要である。交流人口の拡大を図り、賑わいの創出を目指すという松山地区の具体的な施策を分かるようにしていただきたい。

(齋藤明委員)

人口減少、人口流出を防ぐには、働く場の確保が重要だと思う。企業誘致について、酒田市全体では取り組んでいるが、過疎計画の中ではどうなのか。

(長尾課長)

企業誘致は、酒田市全体で頑張っているが、なかなか難しい状況である。計画の中では、新たな企業立地や設備投資への支援、起業促進を図る等と記載しているが、環境整備を進めて企業誘致へつなげたいと考えている。企業誘致は、これをすれば来てくれるというものではなく、地道な取り組みを続けていくしかない。

(平向邦夫会長)

企業誘致については、前回の会議で私も申し上げた。市長から第一級の営業マンになってもらって頑張っていたきたい。

(荘司東一委員)

3点申し上げる。1点目、山寺地区の国道345号線の最上川沿いに、人が集まっていることがある。何をしているかと思ったら、庄内町の風車と夕暮れの月山がきれいなので写真を撮っているとのことだった。これは、地域に住む者として好ましい光景だと感じた。事務局から「中山間地域は景観等に配慮し、風力発電の建設は好ましくない」と説明があったが、南部地区の方から意見を伺いたいと思う。

旧立川町は風力発電に力を入れてきたが、南部地区は同じ清川ダシの風が吹いている。政府でも再生可能エネルギーの普及を進めているし、南部地区で風力発電の検討をしてもいいのではないと思う。酒田市では、洋上発電や砂丘地での発電に取り組んでいるようだが、市全体の事業計画を教えてください。

2点目、前回の会議で、松山の宝推進事業が松嶺地区中心になっていると発言した。改めて内

郷地区の宝について考えたが、樹木、古木が宝に値すると思う。旧松山町の合併30周年記念事業として昭和60年に松山町保存樹を指定し、現在でも保存されている。内郷地区には、柚子の木、ヒイラギ、ハコネウツギ、杉、銀杏などがある。どれも古木になっているので、松山の宝に指定していただいて保存活動に力を入れてもらえばありがたい。

3点目、内郷地区のコミュニティセンターについて申し上げたい。田沢小学校が今年閉校してコミセンが学校へ移設するという話をきいて、内郷地区では「内郷コミセンの移設はどうなるのか」と心配する声が出ている。小学校統合に伴い、南部コミセンも旧地見興屋小学校へ移設したが、内郷小学校は2年間、暫定校舎として使用したため移設は進んでいない。

内郷地区では、このたび地域おこし協力隊の着任も決まり、地域の憩いの場、地域づくりの拠点として旧内郷小学校を活用していきたいので、早期の移設をよろしくお願ひしたい。

(長尾課長)

1点目、再生可能エネルギーについて「風力発電の建設は好ましくない」と記載したのは、鶴岡市羽黒地区の建設反対運動の例にあるように、地域住民が反対するものは好ましくない、という考え方である。地域住民が反対するものは出来ないが、地域住民の理解が得られる場合は出来ない訳ではない。地域住民の考え方によると考える。

(齊藤薫委員)

旧松山町時代に南部地区の風力発電構想の検討に加わったが、勉強会をただで具体的な話にはならなかった。耕作中の田んぼの所有権の問題や、送電線がなく連結が難しいという問題もあった。眺海の森の東山も候補になったが、飛行機運航の妨げになるということで実現しなかったらしいという話もきいた。

必要かどうかは分からないが、それらの問題がクリアできたとしたら、今の時代に合ったエネルギーについて模索することは悪くはないと思う。しかし、何よりも地域住民の意見を踏まえての話になると思う。

(荘司東一委員)

発電は企業活動なので、市の方向が定まらないと企業が参入できない。臼ヶ沢地区では最上川の対岸の風車の風景に慣れてきていると思う。南部地区は開発の可能性はあると思っている。

(平向邦夫会長)

私は南部地区だが、時代の流れかと思うが、対岸の風車は気にならなくなっている。ただ、太陽光発電については危惧している。大川渡地区内には、太陽光パネルがある。私の下新田地区のはつつセンターは、市の草刈り回数が減り雑草が繁茂しており、いずれは太陽光パネルになってしまうかと思っている。

(長尾課長)

3点目の旧内郷小学校へのコミセン移設については、コミセン部分以外の利用が市の方でなかなかまとまらなくて、時間がかかっている。コミュニティ振興会とも相談しながら、検討を進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。

(出嶋支所長)

2点目の松山の宝推進事業については、県事業の「山形の宝」に「城下町の町割り・歴史と文化そして最上川景観」が登録されたことが契機になっている。まずは、自分の地域にはこんなに素晴らしいものがあることを再認識してもらいたい、自分の地域を愛してもらいたい、ということから始まっている。

松山について語り合うワークショップも開催したが、松山の魅力を地域の内外の人に知っていただきたいという趣旨の事業である。そして、地域の人たちが自ら広告塔になって魅力を宣伝してもらえば、移住・定住にもつながるかと思う。また、松山に由緒あるピアノがあるということで、「大手門ピアノ」を実施している。有形・無形の文化財だけでなく、その他のものも結び付けて宝としている。

内郷地区の古木も、宝と思えば宝になる。誰かが認定するようなものではない。宝として宣伝することで、地域の方々から愛してもらえばいいと思う。

5 その他

(齋藤明委員)

先ほど南部地区の風車について発言があった。私の家から月山が見えるが、途中にある風車は見たくない。私の個人の意見だが、風車は景観が悪いので建設してほしくない。

大川渡地区では、空き家跡地に2か所の太陽光発電のパネルがあるが、夏は周辺が熱くなって、隣近所の迷惑となっている。また、昔の話だが、地区の空き地に風車を建設したいという酒田市の業者が来たことがあったが、みんなで反対して諦めさせた。再生可能エネルギーについては、設置場所をよく考えて、住んでいる住民へ配慮して、やさしく進めてもらいたいと思う。

(平向邦夫会長)

今回は5年間の過疎計画の案について、委員の皆さんから意見を出してもらいながら、確認していただいた。5年の間に見直しもできるので、また皆さんの意見をいただいて、過疎地域になった松山地区がより良くなるようにしていただきたい。

(長尾課長)

皆さまから貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。この計画案については、これから八幡地区、平田地区でもご意見をいただくので多少の変更があるかも知れないが、市議会9月定例会に提出する。議決したら、9月下旬頃になるかと思うが、皆さまへ情報提供させていただく。

(平向邦夫会長)

これで、第3回松山地域協議会を終了する。

以 上